

授業作り	重点	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を効果的に活用し、児童一人ひとりの個別最適な学びを推進する。 ・教師と児童で授業を創り、問題解決型の学習を進めていく。 ・個別最適な学びが「孤立した学び」とならないよう、探究的な学習や体験活動を通じ、児童相互の協働的な学びを推進する。
環境作り		<ul style="list-style-type: none"> ・児童が安心して学校に通えるように、安全・安心を第一に考え、学習に集中して取り組める環境を整える。 ・互いに認め励まし合える学級づくりを進めるとともに、ICT機器等を効果的に活用し、学習効果を高める。 ・保護者・地域と連携し、教育環境を整え、児童が学びに向き合い、自ら考え行動する教育を推進する。

■ 学年の取組について

学年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		<ul style="list-style-type: none"> ・筆圧が弱かったり正しい持ち方ができなかつたりして、線が震えたりはみ出たりすることがあるので、整った線で、正しく文字を書く力を身に付ける。 ・数の合成、分解では、絵を見るだけで考えようとするがあるので、図を描いたり、半具体物を操作したりして意味を理解して考える力を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①字を書くときには、姿勢と鉛筆の持ち方について声をかける。 ②プリントやドリルで、なぞり書きに繰り返し取り組む。 ③半具体物の操作を1時間に1回取り入れたり、操作の仕方を言葉にしたりする。
2 学 年		<ul style="list-style-type: none"> ・文や文章を正しく書くことに課題があるので、順番を意識した文章を書けるようにする。 ・考えたことや思ったことを言葉で説明することへの苦手意識をなくす。 ・数の合成、分解を考えるにあたって、問題文に線を引いたり、図を描いたりして考える力を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 主語と述語の関係を確認する。話型や文型の指導をする。 ② 年間を通してスピーチを行う。 ③ ペアでの話し合い活動を取り入れる。話を聞く時のポイントを押さえる。 ④ 文章問題で分かっていること、問われていることの確認をする。 ⑤ 問題解決型の学習を取り入れ、自力解決の時間を確保する。自分の考えを説明する機会を多く作るために個人→ペア→全体の流れで発表させる。
3 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを書くことに、抵抗なく取り組む児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考え方を説明することへの苦手意識をもつ児童には、言葉だけでなく図などでも表現する方法を指導する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ①自分の考えや意見を、言葉や図で表す。

<p>年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の読み取りはできる一方、自分と比べて読んだり考えたりすることにまだ課題がある。 ・文章問題は問題をきちんと読まず、正しく解答できない児童が多い。 ・話し合い活動では、相手に伝わるように話そうとする様子が見られる。一方で、相手の話を最後まで聞くことは苦手な児童が多い。 ・基本的な計算は素早く正確にできる児童が多いが、新宿区学力定着度調査の結果では「図形」「データ活用」領域が苦手な傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の読み取りはおおむね出来ているが、自分と比べて読んだり考えたりすることに課題があるので引き続き指導が必要である。 ・文章問題は、問題を読む際のポイントを押さえる必要がある。 ・相手に伝わるように話すことは概ねできているが、大切なことを聞き逃さないことにはまだ課題があるので指導が必要である。 ・基本的な既習の計算、定規の使い方等がまだ定着していない児童がいるので、引き続き指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ②登場人物の気持ちが表れている箇所に線を引かせる。 ③問題文の重要な言葉に印をつけるよう指導する。 ④話す人の方を見ながら、話の中心に気を付けて聞く態度を身に付けられるよう、日常的に繰り返し声を掛ける。 ⑤作図の学習に向けて、日常的に定規を使用して線を引く。 ④九九の定着が遅れている児童に対して、学習カードを使って引き続き定着を図るようにする。
<p>4 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新宿区学力定着度調査の結果、国語「知識・技能」の正答率が高く、概ね定着している。日常で活用することができていないので、漢字を使って書くように日々指導する必要がある。 ・漢字を正しく読んだり、書いたりすることや、言葉の特徴や使い方をとらえることはよく身に付いているが、作文等で活用することに課題がある。 ・物語を読み取ることに関して、登場人物の行動や気持ちなど想像を膨らませることに課題がある。 ・自分の気持ちや考えを文章で書き表すことに課題がある。 ・新宿区学力調査の結果、算数「思考・判断・表現」の正答率が区平均を下回っている。基礎基本に加え、思考力を高める問題にも継続して取り組ませる必要がある。 ・繰り上がりのあるたし算が全体的に苦手な傾向にある。繰り返し練習問題に取り組む等の指導が必要である。 ・かけ算九九を定着させるため、引き続き練習が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃からすすんで漢字を使おうとする態度を育てる必要がある。 ・登場人物の行動や気持ちなど、叙述を基に想像を膨らませて物語を読み取る力を育成する。 ・経験したことから話題を決め、自分の気持ちや考えを文章で書き表す力の育成が必要である。 ・計算の基礎・基本を正しく理解し、正確に計算できる力を付けさせる。 ・ものさしの目盛りや水のかさの単位など、数量感覚を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①日記や振り返りを書かせる中で、学習した感じを活用することを指導する。 ②読み聞かせ後の、感想交流を行う。 ③日記や振り返りを書かせて、自分の考えや意見を文章化する機会を増やす。 ④基礎的な計算練習、思考力を高める練習問題を定期的に行う。 ⑤計算ドリルとデジタルドリルを併用し、基礎・基本の力を定着させる。

<p>5 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新宿区学力定着度調査の結果、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の正答率が高く、概ね定着しており、文章の要旨をまとめることも少しずつできるようになってきている。より簡潔に要点を絞って書ける継続的な指導が必要である。 ・事実と意見、具体と抽象、などを区別して読むことや、場に応じて文を書き分けることなど、意識できていないことが多く、指導が必要である。 ・分数、小数の計算において、計算の仕方は概ね理解しているが、小数点の位置や繰り上がり、約分などのケアレスミスが多い。 ・文章題の理解においては立式を間違えることが多く、何を計算で求めるかが理解できていない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」の学習では、指定の文字数で簡潔に要旨をまとめることができるよう、筆者の主張箇所を意識して読んだり、キーワードを押さえたりしながら、要点を押さえて書く指導をしていく。 ・例文を用いて、事実と意見、具体と抽象の理解を深めながら、それを生かして書く活動を取り入れる。また、文章を書く際は、読む相手を意識して書かせることで、場に応じた文章が書けるようにする。 ・計算の順序を意識して書くようにするため、計算ドリルを活用し、基礎・基本の力を大切に育てていく。また、デジタルドリルを活用し、計算問題に繰り返し取り組み、速く正確に計算する力を身に付ける。また、習熟度によっては、難解な文章題にも取り組みさせていく。 ・問題を読み、情報を整理し、論理的に考える力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ①説明文の単元では、筆者の意見を受けて、要旨をまとめる学習活動を行う。 ②国語や社会、総合的な学習の時間などで調べ学習を行う際、事実と意見を分けて書く指導を行う。 ③国語のノートをマスノートにし、文字数を意識させる。日記や振り返りを書かせ、文章を書くことに慣れる。 ④少人数算数指導の際、習熟度に応じた問題に取り組みさせる。 ⑤紙の計算ドリルで基礎・基本の力を定着させる。デジタルドリルで繰り返し計算問題の練習をしたり、個に応じた学習に取り組みせたりする。 ⑥問題の読み方を指導し、何を求めるかを意識させる。数直線や図を用いて、根拠をもって立式させる。
<p>6 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新宿区学力定着度調査の結果、どの領域においても区平均を上回っており、学習が定着していることが伺える。 ・学習した漢字を使って文を書くことに課題があるため、漢字を活用する力の向上のため繰り返しの練習が必要である。 ・「読むこと」の中でも、「考えの形成」段階にあたる、自分の考えを文章に表現したりすることに苦手意識がある児童が多い。 ・新宿区学力定着度調査の結果、概ね区平均を上回っている。「データの活用」については、-0.2ポイント下回っており、継続した学習で「慣れる」「わかる」「見直す」の指導を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業全体を通して、文章を書く活動では習った漢字を使うように指導する必要がある。また、デジタルドリルや漢字練習ドリルを活用し、知識・技能の定着を図っていく。定期的にミニテストを行って繰り返し復習するよう指導する。 ・自分の考えをもつために、視点を明らかにしてから活動をすすめていく。また、考えに対する根拠を明確にして自分の考えを表現させる。 ・見直しや検算の重要性を指導し、粘り強く学習に取り組む習慣を児童に身に付けさせる。また、デジタルドリルを活用し、繰り返し計算練習に取り組みさせる。 ・式を立てる前に、問題文のキーワードを確認するなど内容を理解させてから問題に取り組ませるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①漢字の学習を「見慣れる」「読める」「書ける」「使う」の4つの段階があると捉え、段階に応じた指導や練習の方法をとって学習する。漢字ドリルで学習し、自主学习に取り組み、ミニテストを行って、苦手に応じてまた自主学习に取り組むというサイクルですすめる。 ②自分の考えをもち、表現できる子の育成を目指し、週末にテーマ日記を行う。適宜、教師が児童に紹介することで、「考えを表現する」ことへの苦手意識の軽減を図る。 ③学習したことの定着を図るため、紙ドリルを使用する。間違った問題は即時指導を行う。また、児童の苦手に応じてデジタルドリルで習熟を図る。

	<p>必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none">・算数を苦手としていない児童でも、計算間違いや小数点の位置を間違えるなど、単純なミスが多いため見直しをする習慣を身に付ける必要がある。・式の意味を理解せず立式している児童が多い。		
特別支援			